福井地方に於ける蠅類の生態学的研究〔II〕

1952 年の調査

末永 敏

Suenaga, O.: Ecological investigation of the flies at Fukui District (II) A study of the fly fauna in 1952

1. この研究は魚の臓物を誘引剤とした金網製トラップを鯖江町に隣接した畠に設置して毎日蠅の捕殺を行った結果に基いている。今回はその第2報として1952年1月6日から1953年1月4日に至る略一カ年に亘る調査の結果について述べる。2. この期間に捕殺された蠅の総数は57761頭で、これらは糞蠅科、べつ甲蠅科、花蠅科、家蠅科、黒蠅科及び肉蠅科等の6科14属約34種に分類された。この中で最も個体数の多かったのは黒蠅の一種 *Calliphora grahmi* で総数の32.5%、第2位は金蠅の一種 *Lucilia illustris* の27.4%で、*Chrysomya pinguis* は11.6%を占め第3位であり、以下 *Calliphora vomitoria*, *Lucilia sericata*, *Sarcophaga peregrina*, *Muscina stabulans* 等の順であつた。又雌雄の割合をみると、一般に肉蠅の各種では雄がやゝ多く、肉蠅以外の各種では雌が多い傾向がみられた。3. 各種の個体数の割合が季節の遷移に伴つてどの様に変化するかを吟味したところ、早春3月の発生初期より6月末まで、及び12月以後は *Calliphora grahmi* が、7月初から10月下旬までは概ね *Lucilia illustris* が、10月下旬から12月の初までは *Calliphora vomitoria* がそれぞれ優占種と認められたが *Chrysomya pinguis* も9月末から10月初にかけて一時的優占種となつた。4. 各種の蠅の季節的発生消長をみると、3月末までに活動を始めたものは黒蠅の3種及び大家蠅で、4月下旬には金蠅及び肉蠅の活動が開始され、姫黒蠅も5月にはその姿を現した。又各種の活動の山は概ね6月下旬、及び9~10月の頃の2回みられ、一般に春の山がはるかに高かつたが、*Calliphora vomitoria*, *Hemipyrellia ligurriens*, *Chrysomya pinguis* では秋の山の方が断然高かつた。又各種の消滅状況を見ると、肉蠅、姫黒蠅の様に11月中旬に既になくなるものと、その他の多くの種の様に12月まで活動するものと2つのグループに別けることが出来た。5. 各種の雌雄比の季節的変遷をみると、一般に各種を通じて個体数が増すに従つてその値が50%に近づく傾向がみられた。終に御指導をうけた金沢大学の堀克重先生に深く感謝する。(詳細は別に発表の予定)

〔長崎大風研衛生動物〕

イエバエの一飼育法と越冬試験 長花 操

Naganaha, M.: A method of breeding and a experiment of overwintering of the house-fly (*Musca domestica*)

(1) 飼育法 特長は飼料として粉状の固形飼料と飲料水を別個に與えて飼育することにある。固形飼料としては、カルケット100g, エビオス10g, 砂糖10g, ペプトン5g, を混合粉末にしたものを與え、水は水道水を実験の目的により適当な器に入れて與える。普通の飼育には給水容器として円筒状の硝子容器を用いこれに水を入れ、この容器の中に軽い板、又はコルク板(容器の内径より僅かに小さい)を浮べる。この板には予めガーゼを覆つて置いて、この一端は水中に垂らして置く。斯くすると容器中の水が減つても板は水上に浮んでいて板上のガーゼは何時も水分を含んでいる。上記の飼育法による利点は(1) 飼育手数が省ける。(2) 飼料が早く腐るのを防ぐ、(3) 給水容器の形を工夫することにより蒸発面積を少なくすることが出来る(湿度の試験をする際に便利)。(2) 越冬試験 実験に供したイエバエは25°Cで飼育し羽化したものを飼育容器(約10cm 径のホタル籠様のもの)に19乃至24匹入れ、更にこれらの容器を恒湿容器(比湿0, 20, 40, 60, 80, 100%を保つた)に収め室温下で上記の飼育法によつて飼育し越冬試験を行つた。(但し給水瓶としては亀甲状の小硝子瓶を作り一端に小口を作つて、これにガーゼで軽く栓をしたものを用いた)。この結果、(1) 12月9日より実験を開始し3月24日現在まで105日経過後、湿度80%の容器中で飼育したものは半数生存越冬した。(2) 湿度100%及び0%の下では90日以内に死滅し越冬は不成功であつたが40~80%の湿度下では31.5~50%のものが越冬した。(3) 6月も♀もどちらも越冬した。〔鳥取大公衆衛生〕

日本産サシバエ類4種の成虫、幼虫及び卵について 加納 六郎

Kano, R.: Studies on the four species of Stomoxydinae (Muscidae, Diptera) found in Japan

従来日本には2種のサシバエ類即ちサシバエ (*Stomoxys calcitrans*), ノサシバエ (*Lyperosia exigua*) が知られていて、之については、加藤静夫氏、武衛和雄氏等の記載がある。近年矢島朝彦博士は東京にて、多数のイン